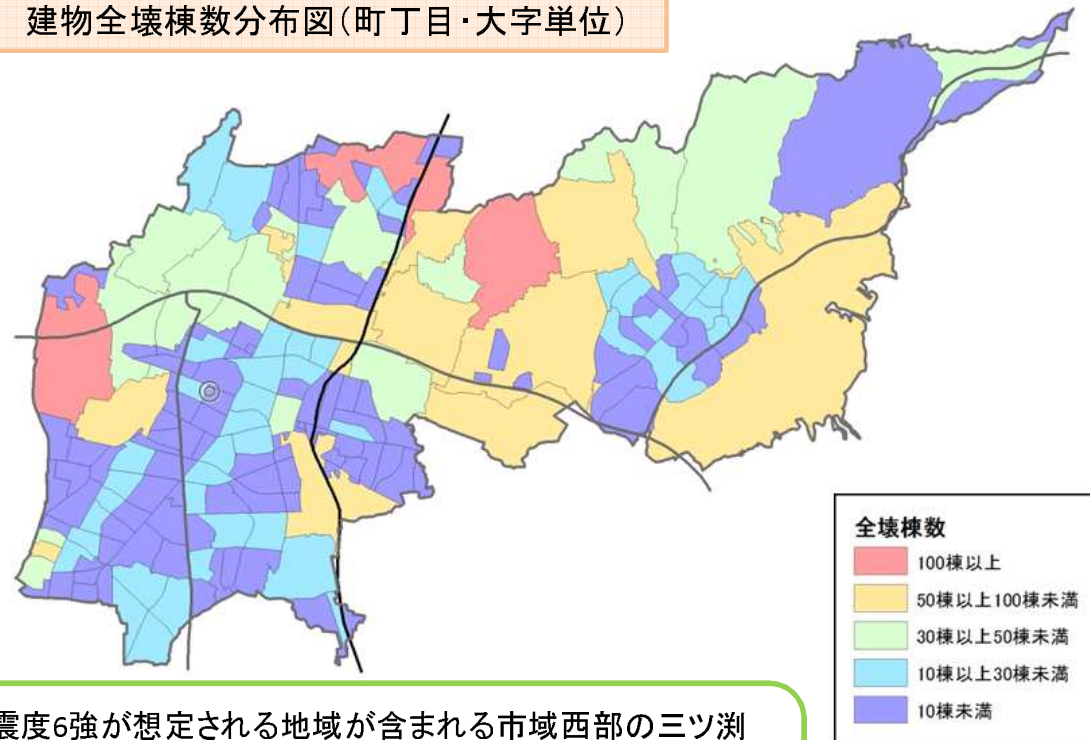


被害想定分布状況(想定濃尾地震)

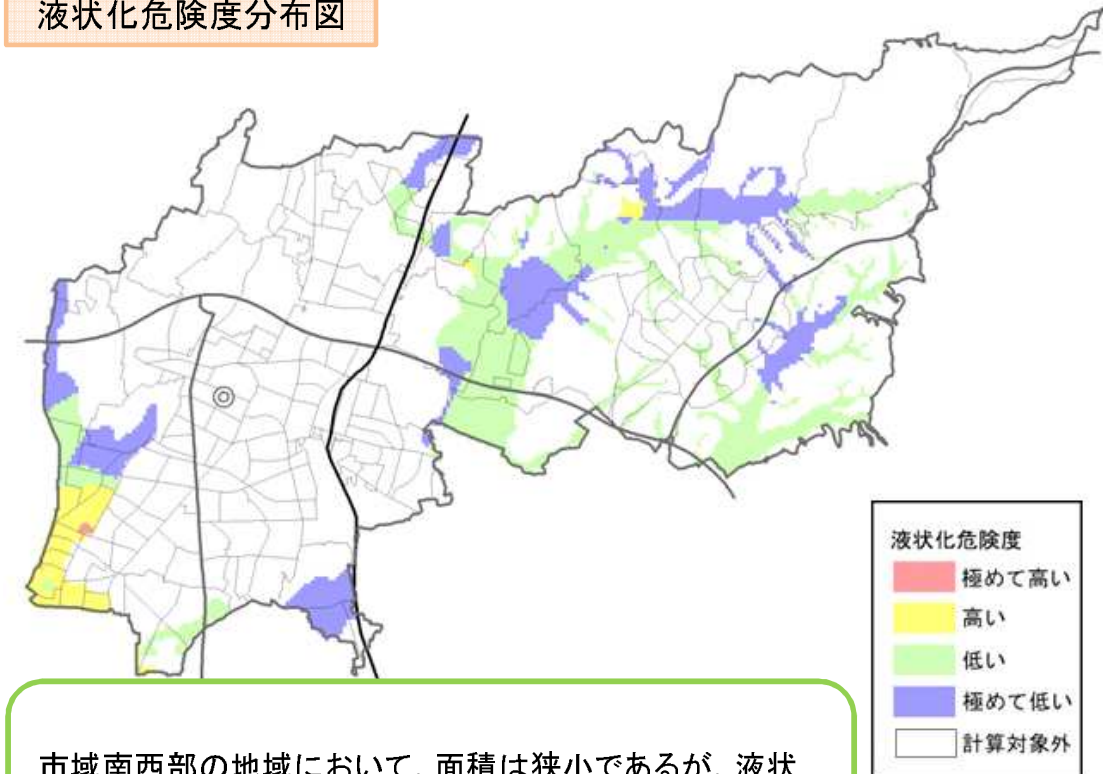
参考資料1-1

建物全壊棟数分布図(町丁目・大字単位)



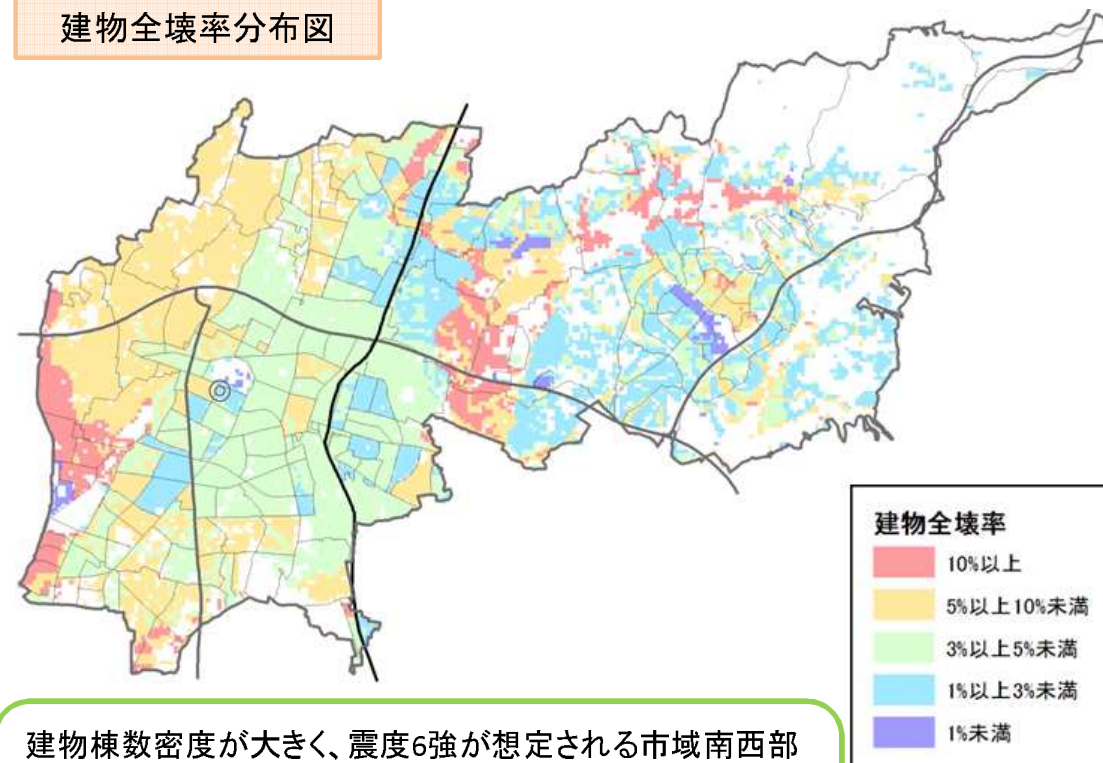
震度6強が想定される地域が含まれる市域西部の三ツ瀧が最も建物全壊棟数が多く153棟、次いで昭和56年以前の木造建物が最も多い久保一色の139棟、全建物棟数が多い本庄の115棟と予測されている

液状化危険度分布図



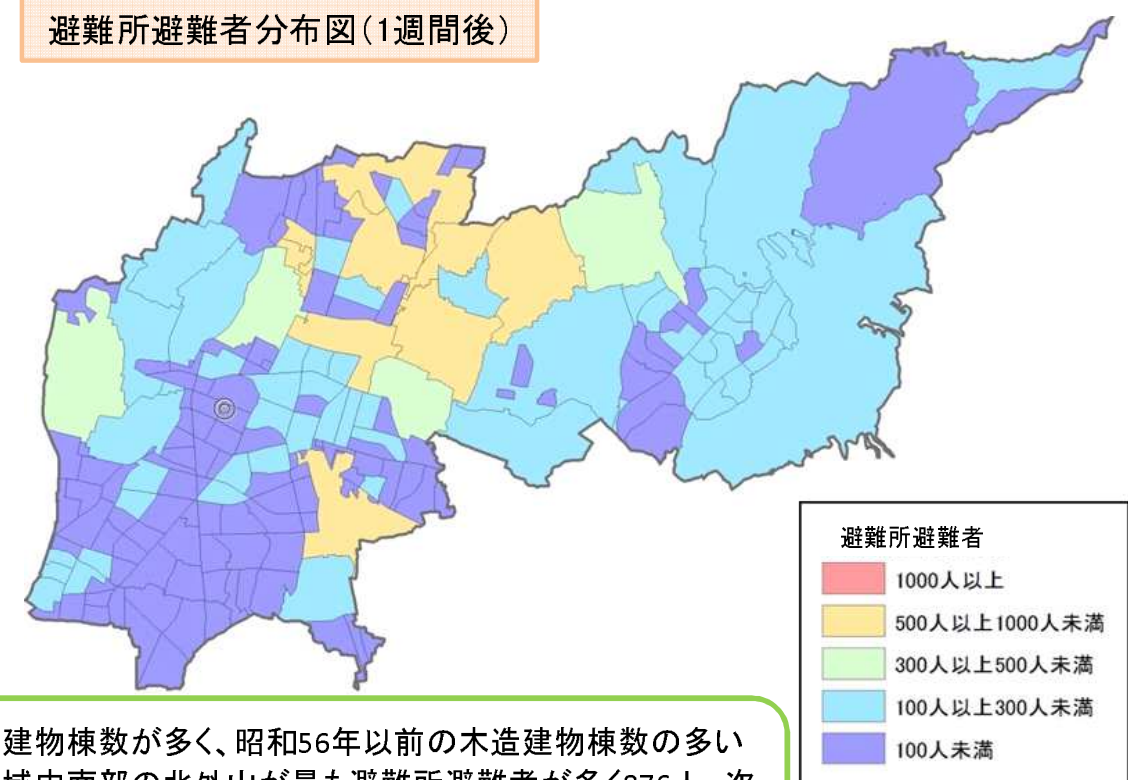
市域南西部の地域において、面積は狭小であるが、液状化危険度の程度が極めて高いと予測されている

建物全壊率分布図



建物棟数密度が大きく、震度6強が想定される市域南西部の藤島二丁目最も建物全壊率が高く12.5%、次いで同様の理由で藤島一丁目の10.9%、藤島町居屋敷の10.2%と予測されている

避難所避難者分布図(1週間後)



全建物棟数が多く、昭和56年以前の木造建物棟数の多い市域中南部の北外山が最も避難所避難者が多く876人、次いで同様の理由で久保一色の805人、岩崎の759人と予測されている